
PROLOGIS

Magazine

Vol.1

2021

物流DX 最前線



データが解き明かす物流現場の姿。 物流DX成功のカギとは

プロロジスと株式会社KURANDOが共同開発する「ロジメーター」は、庫内作業を可視化するクラウドシステムです。2019年のローンチ以降、順調に物流現場への導入が進んでいます。今号では、ロジメーターを活用して物流DXを促進するカスタマーの声とともに、ロジメーターの開発をきっかけに物流DXプラットフォームとして進化する株式会社KURANDOをご紹介します。



撮影場所：プロロジスパーク神戸4

2020年、プロロジスパーク神戸4において「ロジメーター」の運用を開始した新開トランスポートシステムズ。1909年創業という100年以上の歴史を持つ、エレクトロニクス分野のロジスティクス専門集団を率いるキーパーソンのお二人に、導入の経緯を伺いました。

01 かつてない変革期を迎えた物流業界

昨今、我が国の産業界におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の重要性が日々のニュースをにぎわせていますが、流通業界も例外ではありません。慢性的な人手不足を背景に、2016年に施行された物流総合効率化法を皮切りに、様々な変革が求められています。近年、物流と言えば巷ではB to CのEコマースの話題で持ちきりですが、変革という意味ではB to Bの方が影響が大きいかもしれません。各企業が業態を変化させたり、それに伴うSC（サプライチェーン）の見直しを進めるなど、これまでの枠組みが壊れてきているからです。

02 社名にも表した物流のシステム化

当社は1909年（明治42年）に創業、1950年（昭和25年）に株式会社を設立して以来、精密機器分野の物流専門集団として今日を迎えました。社名は物流を一つの流れで体系的に捉えるという概念そのものを表しています。その名の通り、業務系の倉庫運用管理には20年ほど前から取り組んできたほか、近年では、全国60カ所以上の営業拠点における繁閑情報や倉庫の空き情報、大型の製造装置や機械の搬出実施状況といった情報を一元管理して共有する「現場の見える化」も実現してきました。さらに2019年10月には、業務横断的に受注から配送完了までを一気通貫に管理して、工数の大幅削減を実現した基幹システムの運用もスタート。そのほか本社業務におけるRPAや、お客様とのEDI（電子のデータ交換）の導入など、業界に先駆けてDXに取り組んできたという自負があります。今回の「ロジメーター」の導入も、その一環と言えますね。

新開トランスポートシステムズ
常務取締役
蒲池 一聡様

03 工数管理の最適ツール「ロジメーター」

当社では、パーツや部品のピッキングやパッキングの無駄を省くための生産革新活動を、各荷主様とともに半期あるいは四半期ごとにレビューしているのですが、倉庫の実態を把握するための工数計測が欠かせません。しかし、これが非常に大変な作業なので、5年ほど前からあるツールを導入していたのですが、あまり成果が出ないので、半年ほど前から使用を止めていたのです。そうした中、20年5月にプロロジスとKURANDOが開催したプロロジスウェビナーで両社が共同開発した「ロジメーター」のを知り、導入を検討し始めたのです。以前のツールがフルスベックゆえの使いにくさがあったのに対して、ロジメーターは当社が必要とするメニューを柔軟に取り込むことができ、「これなら大丈夫だ」という確信が持てました。

事実、必要とする分析項目がわかっていたので、2週間で環境設定のすり合わせが終了し、プラス教育に1日を要しただけで導入できたのです。その後の1週間のテスト期間で正確な工数計算のデータが取れることが分かり、本稼働にこぎつきました。導入を決定してから本稼働するまでに1カ月も必要としませんでした。現在では約1000坪の特定エリアで作業する20名を対象に、4台のタブレットで入荷・入庫・出庫・検品・出荷までの作業管理を行っています。導入コストも以前のツールの三分の一以下で、しかもクラウドシステムにより、バージョンアップも自動的に行えます。すぐに日常業務に取り込めたことで、社員の評判も上々でした。KURANDOの担当者は現場のことを知っていて、こちらの要望にも真摯に対応してくれる点も、評価を高めているポイントでしょう。

04 二人三脚で歩むDXエリートへの道

当社は精密機器専門で、部材管理から製品の組立や配送、さらには設置までの一貫サービスを提供しています。当然、そこには様々な情報が含まれているので、セキュア物流としてきめ細かな管理が必要であり、その意味でロジメーターは最適なツールと言えるでしょう。現在、福島営業所での導入準備を進めているほか、ニーズに合わせて他の施設でも検討していくつもりです。そのためにも、プロロジスには様々な情報やアドバイスをいただきながら、ともに発展していきたいと願っています。

新開トランスポートシステムズ
代表取締役社長
佐藤 勝様



左から 蒲池常務、佐藤社長、プロロジス 営業部 小島進



株式会社新開トランスポートシステムズ
明治42年創業以来、電気通信機器をはじめとする精密機器を専門としている物流会社です。かつては電子計算機・交換機、近年ではコンピュータ・通信機器・医療機器・製造設備等の精密機器物流のトータルソリューションを提供しています。2019年6月には新開トランスポートシステムズ様のBTS施設「プロロジスパーク神戸4」が竣工し、同年7月よりご入居いただいています。



プロロジスパーク神戸4
株式会社新開トランスポートシステムズ専用施設
所在地：兵庫県神戸市西区見津が丘
敷地面積：約13,000㎡
延床面積：約24,800㎡
竣工：2019年6月

プロロジスとKURANDOは2019年11月に、庫内見える化クラウドソフト「ロジメーター」の共同開発を発表。2020年10月には「ロジメーター」の開発と普及を加速化することを目的に、資本業務提携を締結しました。

物流業界では長い間、業務の効率化や適切な人員配置が喫緊の課題であると言われてはいるものの、現場における集計業務は煩雑で負荷も大きい
ため、思ったほどには進んでいないのが現状です。

プロロジスはKURANDOとともに物流分野においてDX(デジタルトランスフォーメーション)で解決すべき課題に対するソリューションを開発し、KURANDOの物流DXプラットフォームとしての進化を支えます。

株式会社KURANDOについて

TOP MESSAGE

代表挨拶

私たちKURANDOは2019年7月に「物流現場をデータで支える」ことをミッションにスタートしました。私自身、物流業界で10年以上仕事をしたなかで感じたことは「在庫管理や仕分け機などはシステム導入するが、運営は管理者まかせ」だった、ということです。物流の現場は日々の作業数ですら当日まで確定せず波動が大きいので、状況に合わせた柔軟な対応が求められます。難しい業務を現場管理者の経験知によって乗り越えてきた事例を数多く見てきました。

ですが現在、人員リソースの逼迫や作業内容の高度化、変化速度の上昇により、現場運営は更に難しい状況にあります。的確な対応のためにデータ収集、加工、判断業務が増加し、管理者の超過勤務は常態化しつつあります。

この状況を打開できるのは昨今のデジタル技術の利用です。紙の記入をタッチパネルにし、エクセルでの加工をシステムが自動計算し、記憶頼りの判断を過去履歴からのレコメンド(推奨提案)にする。管理者の負担を軽減すれば、問題を良い方向へ向かわせられます。この物流現場のDX化は多くの賛同を得られ、当初想定以上のご期待をいただいております。

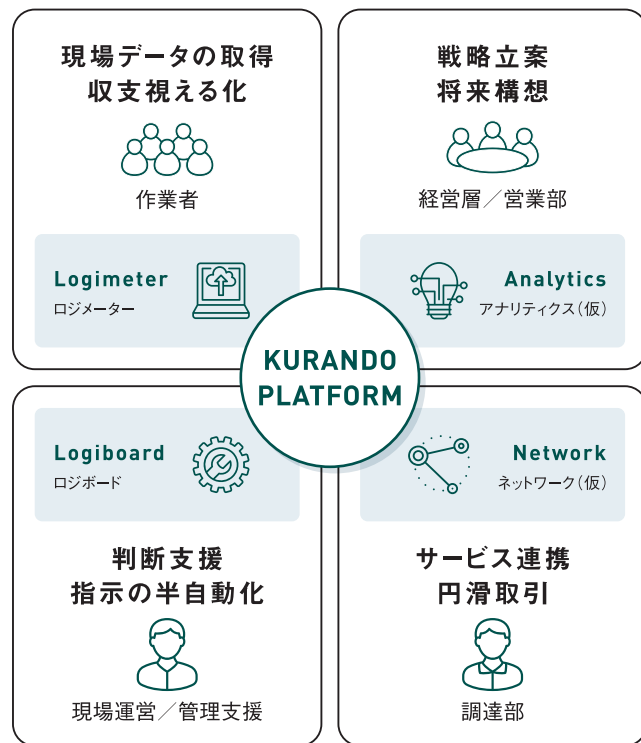
皆様のご期待に応えられるようKURANDOは全速でソリューション開発を続けて参ります。



代表取締役 岡澤 一弘

VISION

ビジョン



商号 株式会社KURANDO
設立年月日 2019年7月
代表取締役 岡澤一弘

本社 東京都品川区西品川1-1-1 ガーデンタワー9F
事業内容 倉庫作業可視化クラウドシステム
「ロジメーター」の企画/開発/提供



ロジメーターの特長

従来取得が困難であった、物流作業現場の生産性や収支を「簡単に」「ムリなく」「正確に」管理できる「安価な」ツールです。すべての現場で共通指標における管理レベルアップが行えます。日々の素早い振り返りによる人員計画、作業数予測はどの現場においても確実に効果を発揮し、将来的には物流現場のDX化まで広がる必須の取り組みとなっていきます。

どの現場でも利用できる、多様な利用方法



数字の流れが簡単にわかる



顧客別/工程別の勝ち負けが見える



作業単価検討の情報が取れる



特別作業の記録が残せる



現場の改善支援用の情報がそろう



本社営業と現場とで情報共有がスムーズに

お問い合わせ先: プロロジス 開発部 TEL: 03-6860-9090 Email: pldnews@prologis.co.jp

